

令和4年度第2回岡崎市総合政策指針審議会 会議録

委員

あいち三河農業協同組合 代表理事組合長	天野 吉伸	委員
岡崎商工会議所 会頭	大林 市郎	委員
東京大学 教授	小川 光	委員
名古屋都市センター長	奥野 信宏	会長
早稲田大学 教授	小野田 弘士	委員
岡崎市医師会 会長	小原 淳	委員
連合愛知三河中地域協議会 副代表	北村 隆一郎	委員
岡崎市教育委員	千野 智子	委員
岡崎市総代会連絡協議会 会長	長坂 秀志	委員
名古屋大学 名誉教授	福和 信夫	副会長
東京大学 准教授	村山 顕人	委員
岡崎信用金庫 地域振興部 部長	八木 則行	委員

(事務局)

総合政策部 部長	手嶋 俊明
総合政策部企画課 課長	岡田 晃典
総合政策部企画課 副課長	板坂 英幸
総合政策部企画課 係長	中村 衣里
総合政策部企画課 事務員	鈴木 のどか

日時 令和5年3月10日(金)

※書面にて実施。

【会長の総括意見】

コロナ禍による人の対流の停滞と経済不況の困難の中で、総合戦略は概ね順調に実行に移されてきている。今後の街づくりにおいて、特に次のことを希望する。

- ・東岡崎駅周辺整備は、岡崎市の街の「格」を考慮した事業の遂行を期待する。
- ・岡崎市の市域の拡大に伴い、利便性の高い公共的な移動手段の整備に努めることは最も重要な活性化施策である。
- ・子育て支援については、子供の出生への効果を見定めることが大切である。子供の生まれる街を目指していただきたい。

・街づくりについては、多様な主体の参加が基本である。NPO等については、財政的に自立して活動する団体の育成に引き続き配慮していただきたい。

【各委員の主な意見と事務局回答】

議題(1) 第2期岡崎市まち・ひと・しごと創生総合戦略の評価について

○全体について

・令和4年度について、おおむね KPI は達成されていると評価できる。3つの事業で KPI が未達成見込みとの自己評価であるが、いずれも問題になるレベルではない。

・令和4年度の実績については評価できるが、阿知和地区基盤整備、放課後児童の居場所拡充、阿知和地区工業団地造成の3分野が達成できていないため、令和5年度では完了できるよう要望する。

○（取組の柱）周辺部・山間部民間投資誘導（主な事業）阿知和地区基盤整備

・阿知和地区のスマートインターチェンジ周辺整備には民間の協力を求めると良い。

○（取組の柱）拠点をつなぐネットワーク構築（主な事業）新たな交通システム導入

・公共交通の高齢者パスがあるが、中長期的な KPI の方向性として、同じく交通弱者である学生世代に向けたそれに相当する施策（現行の学割を超えた学生ワンコインパスや学生無料・乗り放題パス等）の実行を期待する。若い世帯の人口流出の緩和、公共交通の利用促進、世代間不公平の解消など、多岐にわたる課題の解決に寄与できる可能性がある。

○（取組の柱）持続可能な循環型社会の構築（主な事業）ナイトタイムエコノミー推進

・ナイトタイムエコノミー事業が完了したとのことであり、したがって令和5年度の KPI の記載が無い。他方で、年間売上実績を見ると目標値を大幅に超える成果を上げた成功事業と評価できると思われる。実態まで踏み込んで事業の詳細を理解していないが、成果として認められるのであれば、この事業が今後も実行主体を変えるなどして、継続されることを期待する。

○その他

・中山間地域を活用した担い手や関係人口の獲得の必要性は感じるが、子育て環境の整備を充実することが大きな課題である。

・大河ドラマの影響もあり、認知度が上がり観光の面でも魅力が向上している。周辺市町との連携や官民連携を進めるコーディネート力、場作りが望まれる。

議題(2) 第2期岡崎市まち・ひと・しごと創生総合戦略の改定について

○全体について

- ・的確に作られている。

○p.8「基本目標① 未来のまちづくり」について

・「脱炭素先行地域」では、カーボンニュートラルへの取り組みのみならず、まちづくりや産業振興等のKPIへの貢献が求められている。施策の相互連携を図ることを検討してほしい。

・「基本目標① 未来のまちづくり」においては、「多世代・多機能な骨太の集約連携型都市」、「地域循環共生圏」、「持続可能なまち」、「ゼロカーボンシティ」など、都市・地域の将来像を示す用語が含まれている。しかしながら、都市・地域の空間(物的環境=built environment)の具体的なイメージが示されておらず、これでは都市計画や緑地計画、交通計画の指針になり得ない。都市計画、緑地計画、交通計画の担当部署と議論し、具体的なイメージを提示してほしい。

○p.9 (取組の柱) 周辺部・山間部民間投資誘導 (主な事業) 中山間地域投資誘導

・令和5年度 KPI として移住相談者件数が目標となっているが、移住者を獲得することが本来の目標であり、移住相談はその入口である。移住相談者にとって移住のネックとなっている事柄をクリアするため、住居問題(空き家の斡旋、リフォームの補助、ファイバーケーブル、Wi-Fi など) や就労支援などについて、今後は目標として表記する必要がある。

(事務局)

令和5年度 KPI として設定している移住相談者数5件は、「岡崎市中山間地域活性化計画」の成果指標より引用している。この計画に基づき、地域課題に応じた取組の実施により移住・定住を促進するもので、住居問題や就労支援などの課題についても段階的に対応を行っていく。将来的には本来の目標である移住者数を指標とすることも含めて検討を行っていく。

○p.9 (取組の柱) 都市の強靱化 (主な事業) 雨水対策推進

・令和5年度の KPI について、「六名ポンプ場整備完了」と設定されているが、令和4年度3月28日に完工式が挙行され、4月より供用開始の予定となっていると思われる。

(事務局)

六名雨水ポンプ場について、ご指摘のとおりポンプ場の供用部分整備は終了し、ポンプ場としての機能が発揮可能となるが、引き続き外構工事を行い、令和5年度中に完成する見込みであるため、KPIとして記載のとおり設定している。

○p.11（取組の柱）子育て環境整備

・取組の柱「子育て環境整備」に主な事業として「屋内遊戯施設整備」と「子育て課題解決」が新たに加わった点が評価できる。日本の少子高齢化、人口の減少の局面において、子育て環境整備は今後も非常に重要であるため、その取り組みに期待する。

○p.11（取組の柱）子育て環境整備（主な事業）子育て課題解決

・「子育て課題解決」のKPIとして『セミナーにおける「（男性セミナー参加者を対象にして）家事・育児に積極的に取り組むようになった受講者の割合」90%』の設定は、事業全体内容の理想に対して対象としている内容が狭すぎる点で、KPIとして適切であるか疑問に思う。市民が期待する「子育て課題解決」においては、家庭内における個人の意識改革のような「個人の努力」を期待した目標値ではなく、市民一人ひとりの努力ではどうにもならない課題について、真摯に市がそれを把握する姿勢、そして、その解消に向けて動いてくれることを期待できるものであってほしい。

（事務局）

ご意見を踏まえて「子育て課題の抽出件数5件」へ変更する。

○p.11（取組の柱）多様な活躍の基礎充実（主な事業）スマートウエルネスシティ推進

・スマートウエルネスシティ推進の令和5年度KPI「「クアの道」（クアオルト健康ウォーキングコース）活用状況25回」は妥当であるか。

（事務局）

健康に関する指標向上などの便益（アウトカム）に関する数値目標を設定するのが望ましいが、スマートウエルネス推進事業については単年度での便益を数値目標にするのが困難である。令和4年度KPIは「ウォーキングアプリ累計登録者数9,000人」としていたが、ウォーキングアプリのダウンロード数と利用者数に乖離があることから、令和5年度KPIは「ウォーキングアプリ アクティブユーザー数4,200人」へ変更する。

○その他

・第2期まち・ひと・しごと総合戦略の中間年の見直しに向け、昨年及び一昨年のコロナの影響が気になる。岡崎市では、平成28年度に比べて事業所は約7%減、人口の社会増減もコロナの影響がなかった令和元年にマイナスに転じて以降、600～1300人のマイナスになってしまっているようだ。これらが一時的な現象なのか、働き方や産業構造の変化の影響を受けて中長期的に続いてしまうものなのか、その原因を検討し、次期計画の参考にできると良い。